「希望の島」のルーツを探る（改訂版）(4)

1. はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
2. Gospel Song または Gospel Hymn・・・・・・・・・・P 1
3. 男声合唱の原曲 ”That Beautiful Land” ・・・・・・ P 2
   3.1 原曲の作詞者と作曲者
   3.2 “That Beautiful Land” の歌詞
   3.3 編曲者 Daniel Brink Towner(1850～1919)
   3.4 ”That Beautiful Land” の合唱譜
   3.5 楽譜の注書き
   3.6 楽譜 “Towner’s Male Choir” の日本への伝来
   3.7 “That Beautiful Land” の日本での演奏
4．Jones が作曲した源流の曲・・・・・・・・・・・・・・・P 6
   4.1 Mark M. Jones 作曲の楽譜
   4.2 真の源流である可能性
5. 類似の Gospel Song・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9
6. 小松玉巌 作（訳）詞の「希望の島」 ・・・・・・・・・ P 10
   6.1 小松耕輔の略歴
   6.2 小松耕輔と合唱
   6.3 小松玉巌の日本語の原典
7．音楽雑誌「音楽界」掲載の「希望の島」・・・・・・・・ P 16
   7.1 目次
   7.2 歌詞と楽譜
8.「希望の島」の演奏と普及 ・・・・・・・・・・・・・・・ P 18
   8.1 初演
   8.2 初演後の演奏記録
9. グリークラブ アルバム２の楽譜の訂正 ・・・・・・・・ P 22
10.「希望の島」の多様な歌詞 ・・・・・・・・・・・・・・・ P 23
11. 謝 辞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 24
12. 参考資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 25
13. 別冊付録 ・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 27

2010 年 2 月 14 日
改訂(3) 2010 年 9 月 5 日
改訂(4) 2017 年 8 月 25 日：初演情報などを追加

吉居 清

「希望の島」のルーツを探る（改訂版）(4)

1. はじめに

「はるかへだつ　うみのあなた　なみかぜ　しずかに・・・」

で始まる「希望（のぞみ）の島」は戦前から歌い継がれ、今も多くの男声合唱団で愛唱されている。ところが、この歌のルーツや日本語訳が作られた経緯についてはほとんど分かっていない。現在、最も信頼できると思われる「グリークラブ アルバム２」（第１刷発行 1978(昭和 53)年 7 月 1 日）の楽譜には作詞者名が無く、作曲者名は H.ジョーンズとなっている。また楽譜の下には「日本の男声合唱におけるもっとも古い愛唱歌のひとつ。わかりやすい口語歌詞のものもあるが、ここに載せたのがオリジナル」と注記されている。これより前の 1953(昭和 28)年に音楽の友社から出版された「合唱アルバム３」の楽譜には M. Jones 原曲、小松玉巌作詞、平井康三郎編曲、さらに 1959(昭和 34)年に同じ音楽の友社から発行された「合唱手帳 5　男声編（2)」の楽譜では小松玉巌作詞、ジョーンズ作曲となっていて、歌詞が少し違っている（資料 1,2,3)。

そこで、ジョーンズとはどのような人か、その原曲は何か、合唱に編曲したのは誰か、日本語の歌詞はいつ頃作られたのか・・・などについて、インターネット検索を駆使して調べた。その結果、男声合唱の原曲は「いざ起て戦人よ」の原曲 ”Song of the Soldier” と同じ時代のアメリカで編曲されたキリスト教福音派の讃美歌(福音唱歌－Gospel Song) “That Beautiful Land” であることが分かった。また作詞者の小松玉巌（ぎょくがん）は山田耕筰とほぼ同じ時代に活躍した作曲家・音楽教育家 小松耕輔(1884～1966)の作詩のさいの号で、1909 年に日本語の詞による楽譜が出版されていた。その後、これが広がるにつれて、種々の異なる歌詞が伝わっていることも分かった。

そこで、これらの調査結果をまとめた報告書を一部の方に公開したところ、新たな情報が寄せられたので、それらを参考に追加調査を行ってまとめ直して、改訂（2）を 4 月 23 日付けで発行した。

その後も調査を続けていたところ、重要な情報が入手できたのでそれらを加えて改訂（3）を、さらに 2016 年に明治~大正時代の音楽雑誌「音楽界」を再調査したところ、新たな知見が得られたので、改訂(4) として発行することにした。これはほぼ最終的なものであり、男声合唱ファンの皆さんのお役にたてば幸いである。

2. Gospel Song または Gospel Hymn

19 世紀後半のアメリカでは、キリスト教改革運動の中で各宗派が伝道活動を活発化させていた。特に福音派(Evangelism)は広い会場に多くの人々を集め、福音伝道家(Evangelist)と福音伝道歌手(Gospel Singer)が説教と讃美歌を組み合わせて布教の効果を高めていた。 この集会用の讃美歌が ”Gospel song” または” Gospel Hymn” （日本では福音唱歌）と呼ばれ、19 世紀中頃から 20 世紀初めにかけて多数、作詞・作曲された。多くは忘れられたが一部は歌い継がれ、日本の讃美歌にも採り入れられた。

一方、現在、日本で”Gospel”と呼ばれている歌は、プロテスタントの讃美歌とアフリカのリズムが融合し、黒人霊歌を経て黒人の教会で歌われるようになったもので、上記の”Gospel Song”とは異なるものである（資料 4,5)。

3. 男声合唱の原曲 ― “That Beautiful Land”

3.1 原曲の作詞者と作曲者

同志社グリークラブ OB の脇地　駿氏が二つのホームページに発表された記事が重要な情報源となり、この合唱版の原曲が “That Beautiful Land” であること、また、これが次の二つの楽譜に掲載されていることが分かった（資料 6,7)。

(1) “Towner’s Male Choir”, Fleming H. Revell Company, Chicago (1894)

(2) “ Quartets for Men”, Indiana Publishing Co.(1926)

いずれの楽譜でも

作詞：F. A. F. White、作曲：Mark M. Jones、編曲：D. B. Towner

となっており、編曲者自身が編集した（1）が原典と考えられる。曲名は、3.3 項に示す歌詞の Refrain 部分の冒頭 の言葉からきている（資料 8)。

なお、作詞者 White の経歴は女性であること以外まったく分からず、作曲者 Jones の経歴も 1834 年生まれ、1905 年死亡以外は不明である。

3.2 編曲者 Daniel Brink Towner (1850～1919)

アメリカの Gospel Song 作曲家。1850 年 3 月 5 日、ペンシルヴァニア州の Rome 生まれ。父親の J. G. Towner が有名な歌手で音楽教師だったので、幼少のころから音楽教育を受けた。17 歳の 1867 年には、ニューヨーク州やオハイオ州でボーイ・バスとして多くのコンサートで歌った。さらに数年後、音楽学校で声楽や指揮法を教えながら、オラトリオのバリトン歌手としても名声を高めた。

若い頃から作曲家を目指して歌を作り始めていた彼は 1870 年 12 月に結婚し、すぐにニューヨークの 教会の音楽監督になった。1882 年秋から 1885 年秋にかけてオハイオ州シンシナティの教会の音楽監督に就くとともに、最高の福音伝道家といわれた D. L. Moody (1837 ~1899) と組んで、福音伝道歌手としても活動した。1893 年秋にはシカゴの Moody Bible Institute（ムーディ聖書学院）で Gospel Singer のために教育を行い、1900 年 9 月にテネシー大学から音楽学博士号を得た。

彼は多くの Gospel Song を作曲し、1,300 曲以上が出版された。また 14 冊の音楽書の編集に参加し、そのうち 3 冊は男声向けのものである。代表的な作品には
“Anywhere With Jesus”, “Trust and Obey”, “Paul and Silas”, “Redeemed”・・・
などがある。1919 年 10 月 3 日、69 歳で死去した（資料 9)。

（注 1）彼の父親 J. G. Towner は 1862 年から 2 年間、”Song of the Soldier” の作曲家 James McGranahan と組んで福音伝道活動を行っていた。

（注 2）日本のホーリネス教会の創始者　田中重治(1870~1939) は 1896 年から 2 年間ムーディ聖書学院に留学し、D .B. Towner などの指導を受けた。

3.3 “That Beautiful Land” の歌詞

3 番まであり、その 1 番は次のとおりである。なお、2~3 番の歌詞は、図 1 の.楽譜をご覧いただきたい。

I have heard of a land　　On a far away strand,
In the bible, the story is told,
Where cares never come,　Never darkness nor gloom,
And nothing shall ever grow old.

(Chorus-Refrain)

In that beautiful land　　On the far away strand
No storms with their blasts ever frown;
The streets, I am told, are paved with pure gold,
And the sun, it shall never go down.

なお、2 番まで共通の”And nothing shall ever grow old” の”shall” が 3 番だけ”can”になっており、1926 年に発行された 3.1 項(2) の楽譜も同じである。

3.4 ”That Beautiful Land” の合唱譜

これが掲載されている “Towner's Male Choir” は、1894 年に Fleming H. Revell Co.から出版された。ここは D. L. Moody の義理の兄弟 Fleming H. Revell がシカゴに設立したキリスト教系の出版社である。この楽譜集が幸いアメリカの古書店からインターネットで購入できたので直接、調べた。この楽譜集はポケット・サイズの B5 版で、154 曲が収録されていて、この曲の楽譜は P115~116 に掲載されており、図 1.(P4~5) に示す（資料 8)。

序文には「教会での礼拝、YMCA や福音伝道などの集会で役立つであろう」と書かれており、編集した Towner は福音伝道活動にも参加していたことから、収録されている曲はいずれもキリスト教福音派の讃美歌(Gospel Song)と考えられる。なお、索引の曲名は”The Beautiful Land” と誤記されている。

グリークラブ アルバム２の「希望の島」と比べると、

(1) 曲の調性は同じヘ長調(F)で、合唱としての構成も同じである。

(2) 各パートの音も殆ど同じであるが、音とリズムが〇印を付けた 5 個所で違っている。具体的には、日本語の原曲譜との比較を含め、6.3.3 項で説明する(P 11)。

3.5 楽譜の注書き

(1) 題名の下に ”May be sung as a duet by 1 st and 2 nd tenors”と、17 小節目には”CHORUS” と書かれている。したがて、前半をテナーの二重唱、後半を四部合唱で歌ってもよいことを示しており、これは前半をリーダが、後半を全員で歌う Gospel Song の一般的な歌い方である。

(2) 作曲者欄には ”Mark M. Jones By per.” と書かれている。”By per.” の意味は一般の英和辞典にはないが、他の楽譜の例から ”By permission”（許諾済み）の略語と考えられるので、Towner が Jones または著作権を持っている出版社の許諾を得て編曲したことを示しているものと考えられる。

(3)P115 の下に”Arrangement copyrighted by D. B. Towner”と小さく書かれているので、この曲が Towner 自身によって男声合唱に編曲されたことが分かる。

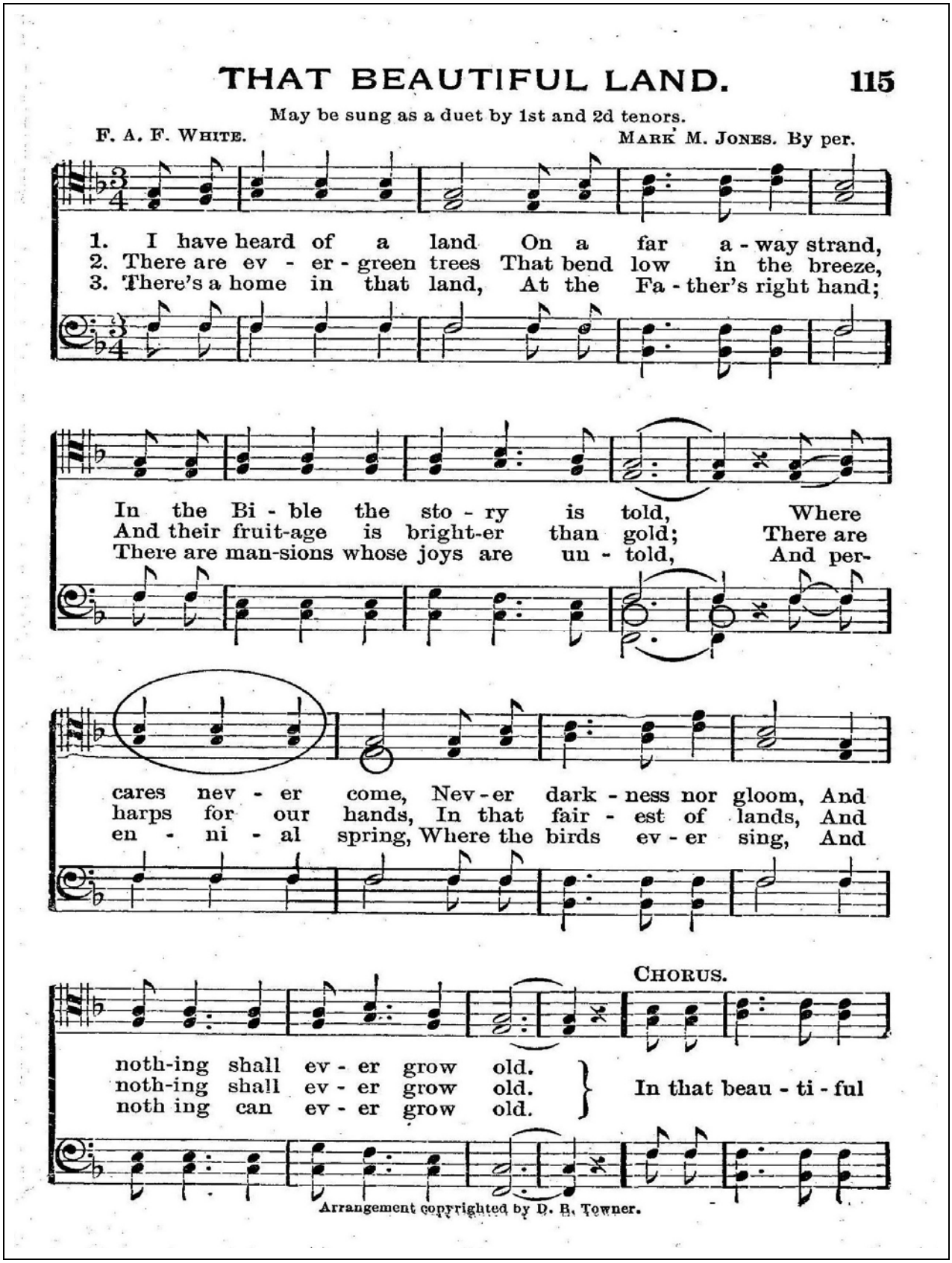


図 1-1　1894 年に出版された “That Beautiful Land” の楽譜(1/2)

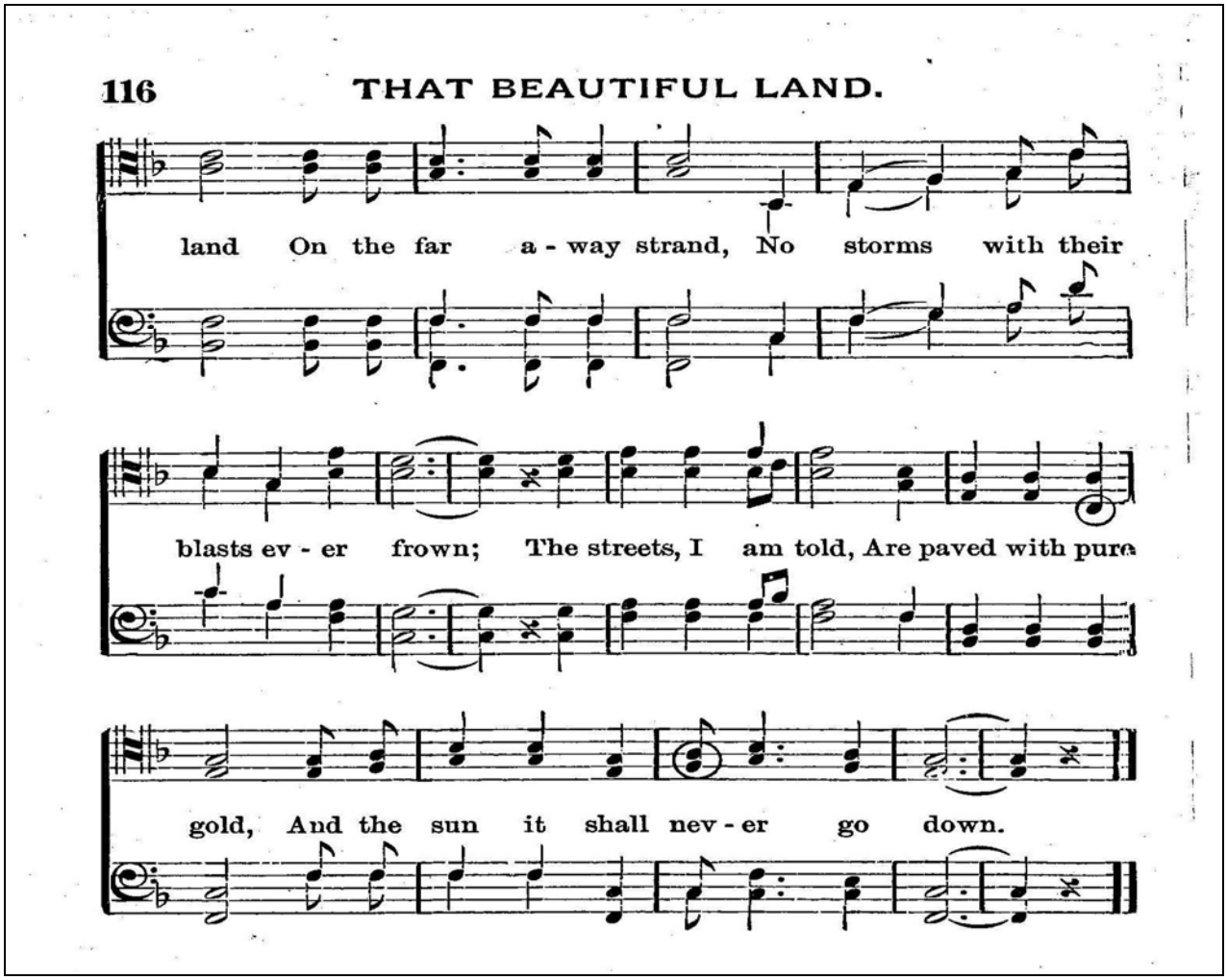


図 1-2　1894 年に出版された “That Beautiful Land” の楽譜(2/2)

3.6 楽譜 “Towner’s Male Choir” の日本への伝来

「希望の島」を作詞した小松玉巌(耕輔)は、当然、事前にこの楽譜を見たはずである。そこで、この楽譜の伝来径路を探った。

(1) Webcat Plus などを使ってインターネットで全国的に検索した結果、この楽譜が今も所蔵されているのは、フェリス女学院大学（横浜－創立 1870 年）と同志社女子大学（京田辺市－創立 1876 年）の 2 個所だけで、男子校や東京芸術大学では見つからなかった。両女子大学ともに、この楽譜が出版される 20 年以上前に創立されたミッション・スクールで、アメリカから多くの宣教師や教師が来校しているので、彼らが持ち込んだものと思われる。

(2) 小松玉巌は 1901～1909 年の間、東京音楽学校に在校しており（6.1 項参照）、当時、学校では海外から多くの楽譜を収集していたので、それらの中にこの楽譜があった可能性がある。しかし、現在の東京芸術大学図書館には所蔵されていない。前身の東京音楽学校は、関東大震災でも太平洋戦争中の空襲でもほとんど被害を受けていないだけに、残っていないのが不思議である（資料 10）。

したがって、小松がいつ、どこでこの楽譜に出会ったのかは分からない。

(3)1889（明治 22）年に学校が創立され、1899（明治 32）年から活動を始めた関西学院グリークラブでは、草創期から指導していた岡島まさ　がアメリカ留学から帰国した 1912（明治 45）年に多くの楽譜を持ち帰ったと言われている。それらの中にこの楽譜が含まれていた可能性が高いが、関西学院の図書館には残されていない。

(4)1875（明治 8）年に創立された同志社でもアメリカから多くの宣教師や教師が来校し、この楽譜がもたらされた可能性があるが、現在の大学内には所蔵されていない。しかし、1904（明治 37）年に創立されたグリークラブでは、古い団員の間にこの楽譜集が伝わっており、次の 3.7 項で説明するように、1913 年には歌われている（P21, 表 3.参照）（資料 7,12)。

筆者は、この楽譜集が同志社の校歌 ”Doshisha College Song” の作詞者ヴォーリズ（W. M. Vories) からグリークラブに伝えられたのではないかと推察している(資料 34)。

3.7 “That Beautiful Land” の日本での演奏

(1)東京音楽学校では、1889（明治 22）年以降のカリキュラムに合唱が「複音及び諸重音唱歌」として入っていた。しかし、小松が卒業した 1909 年までの公式演奏会で歌われたのは、ほとんどがヨーロッパの混声合唱曲であった。男声合唱が初めて歌われたのは彼が卒業した後の 1912(大正元)年 10 月で、その後もこの歌が歌われた記録は見当たらない（資料 10)。

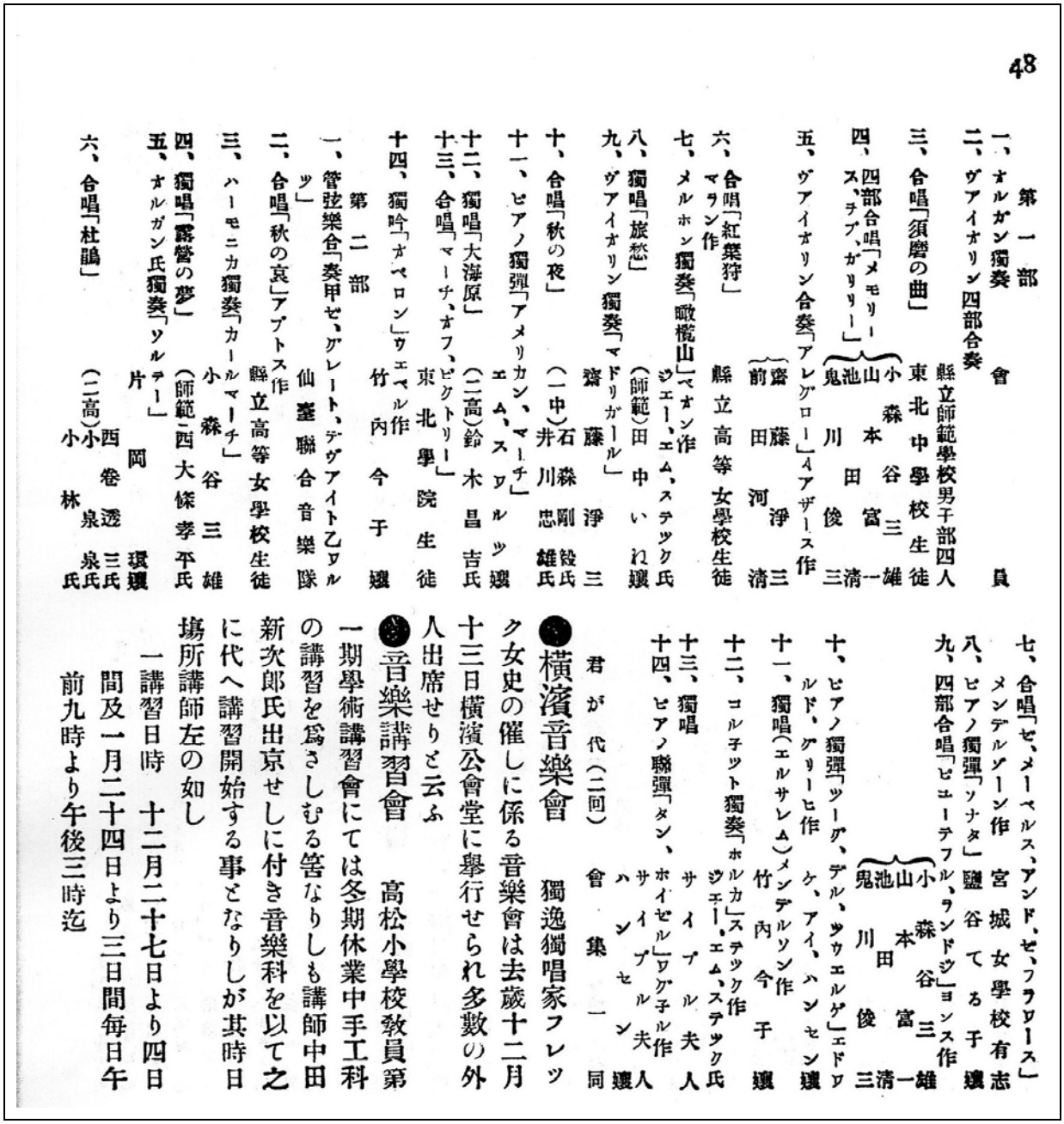
(2) 7 項(P15)で述べる小松耕輔が編集主事を務めていた明治～大正時代の音楽雑誌「音楽界」には「中央楽況」、「地方楽況」という欄があり、各地の演奏会情報が紹介されている。その第一巻・第二号（1908（明治 41）年 2 月 1 日発行）の「地方楽況」には、前年 11 月 9 日に仙台医学専門学校講堂で開かれた仙台諸学校連合音楽会のプログラムが掲載されており、その第二部の第九番目に、「男声四部合唱『ビューテフル、ランドウ』ヨンス作」が記載されている。これを、図 2 (P 7) に示す。これは、ジョーンズ(Jones)作曲の”That Beautiful Land” と考えられ、最も古い記録である。歌ったのは小森谷三雄、山本富一、池田 清、鬼川俊三の 4 名で、仙台医学専門学校（現 東北大学医学部）の学生かもしれない(資料 32)。

この時期、すでに讃美歌集“Towner’s Male Choir”がアメリカから届いていたことを示しているが当時、東北学院や宮城女学校にいた音楽に熱心な外人教師が持参した可能性が高い。

(3) 関西学院グリークラブ八十年史と同志社グリークラブ三十年史を調べたところ、後者の中に歌われた記録が見つかった。それらを、関連事項と共に表 3. （P21）に示す。なお、1922 年以降は”That Beautiful Land”が見当たらず、いずれも日本語の「希望の島」を歌っている（ 8.2 項参照）（資料 11、12)。

4．Jones が作曲した源流の曲

3．項で説明したように、D. B. Towner が編曲して 1894 年に出版された”That　Beautiful Land”の楽譜 には、Mark M. Jones が作曲者名として書かれている。したがって、Jones が作曲した真の源流曲が存在するはずである。そこで、この問題に触れている唯一の資料 “Defender of Truth, For the defense of the gospel” のホームページを参考にして説明する（資料 13)。



48

第一部

一、オルガン獨奏　會員
二、ヴアイオリン四部合奏　縣立師範學校男子部四人
三、合唱「須磨の曲」　東北中學校生徒
四、四部合唱「メモリース、チブ、ガリリー」　小森谷三雄　山本富一　鬼池川田俊三清
五、ヴアイオリン合奏「アレグロー」イアザース作　齋藤淨三　前田河清三
六、合唱「紅葉狩」マラン作　縣立高等女學校生徒
七、メルホン獨奏「暾慨山」マオン作　ジエー、エム、ステツク氏
八、獨唱「旅愁」　(師範)田中いれ孃
九、ヴアイオリン獨奏「マドリガール」　齋藤淨三
十、合唱「秋の夜」　(一中)石森剛毅氏　井川忠雄氏
十一、ピアノ獨彈「アメリカン、マーチ」　エム、スワルツ孃
十二、獨唱「大海原」　(二高)鈴木昌吉氏
十三、合唱「マーチ、オフ、ビクトリー」　東北學院生徒
十四、獨吟「オベロン」ウエベル作　竹内今子孃

第二部

一、管弦樂合「奏甲セ、グレート、デヴアイト乙ワルツ」　仙臺聯合音樂隊
二、合唱「秋の哀」アブトス作　縣立高等女學校生徒
三、ハーモニカ獨奏「カールマーチ」　小森谷三雄
四、獨唱「露營の夢」　(師範)西大條孝平氏
五、オルガン氏獨奏「ソルテー」　片岡環孃
六、合唱「杜鵑」　(二高)小西卷透三氏　小林泉泉氏
七、合唱「セ、メーベルス、アンド、セ、フラワース」メンデルゾーン作　宮城女學校有志
八、ピアノ獨彈「ソナタ」　鹽谷てる子孃
九、四部合唱「ビューテフル、ランドウ」ヨンス作　小森谷三雄　山本富一　鬼池川田俊三清
十、ピアノ獨彈「ツーグ、デル、ツウエルゲ」エドワルド、グリーヒ作　ケ、アイ、ハンセン孃
十一、獨唱(エルサレム)メンデルソン作　竹内今子孃
十二、コルチツト獨奏「ホルカ」ステツク作　ジエー、エム、ステツク氏
十三、獨唱　サイプル夫人
十四、ピアノ聯彈「タン、ホイゼル」ワグネル作　サイプル夫人　ハンセン孃

君が代(二回)　會集一同

●横濱音樂會　獨逸獨唱家フレック女史の催しに係る音樂會は去歳十二月十三日横濱公會堂に擧行せられ多數の外人出席せりと云ふ

●音樂講習會　高松小學校教員第一期學術講習會にては冬期休業中手工科の講習を爲さしむる筈なりしも講師中田新次郎氏出京せしに付き音樂科を以て之に代へ講習開始する事となりしが其時日塲所講師左の如し

一講習日時　十二月二十七日より四日間及一月二十四日より三日間毎日午前九時より午後三時迄

図 2. “ That Beautiful Land ” の日本での最も古い演奏記録
1907（明治 40）年 11 月 9 日に仙台医学専門学校講堂で開かれた、
「仙台諸学校連合音楽会」のプログラム。第二部九番にヨンス作
「ビューテフル、ランドウ」がある。

4.1 Mark M. Jones (1834~1905) 作曲の楽譜

この曲は” I have heard of a land” の曲名で 1889 年に Jones によって著作権が登録されたとのことなので、この頃に作曲されたと思われる。その後、著作権はシカゴの福音派出版社の所有になった。

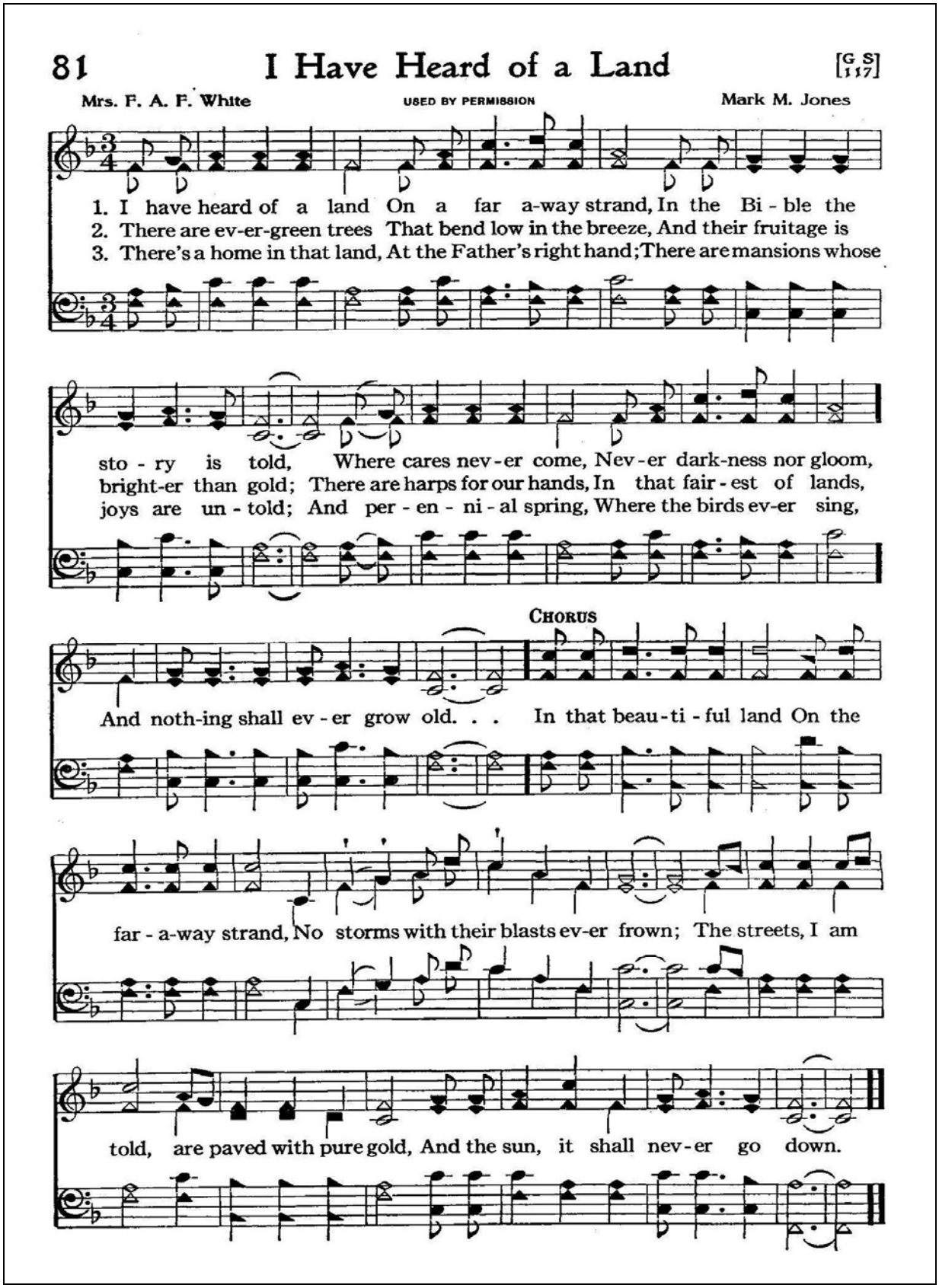


図 3. Mark M. Jones 作曲 “I Have Heard of a Land” の楽譜

この歌は E. L. Jorgenson が 1921 年に出版した”Great Songs of the Church No.1”に掲載されてから、教会で広く歌われるようになったと言われている。この讃美歌集はその後も版を重ね、1990 年には”Song of the Church 21st C. ED.” が出版されている。 初版本は見つからなかったが、1940 年版がアメリカの古書店から購入できたので、これをもとに直接、調べた。この曲は P81 に収録されており、楽譜を図 3.（P 8）に示す（資料 14)。

（1）各パートの音の構成から、これは混声合唱の楽譜である。

（2）Towner の男声合唱版と比べると、調性は F（ヘ長調）と同じで、メロディは半分ほど違っているが、歌詞は 1～3 番までほとんど同じである。

(3) 歌詞のうち、3.3 項で指摘した”And nothing shall ever grow old”は 3 番まで同じである。

(4) 音符の頭が通常の卵形だけでなく、△、▲、▼・・・など種々の形状が使われている。各形状はそれぞれが固有の音の高さに対応しており、例えば、△・▲：F, ▼：G, 卵形：C・・・などである。この音符の来歴は定かではないが、この讃美歌集特有のものではないかと考えられる。

4.2 真の源流である可能性

この讃美歌集の初版が 1921 年に出版されたのに対して、Towner の男声合唱版は 1894 年と 27 年も前に出版されている。したがって、図 3 の楽譜がすぐに源流であるとは断定できない。ただ、次のような理由から、その可能性は高い。

(1) 楽譜には編曲者名が書かれていないので、Jones 作曲のままである。

(2) この曲は 1889 年に著作権が登録された後、「シカゴの福音派出版社」の所有になったが、この出版社はムーディ聖書学院と関係が深い”Fleming H. Revell Co.” と考えられる。編曲した Towner は 1893 年からこの学院で Gospel Song を教えていたので、この出版社が所有している未出版の楽譜を見ることは、容易にできたものと考えられる。

5．類似の Gospel Song

“I have heard of a land” で始まる歌詞を用いた Gospel Song が 2 曲あり、 いずれが先に作られたのかは不明である。 脇地氏から楽譜が提供されているので、別冊付録を参照していただきたい。また、NetHymnal のホームページで、電子音によるメロディを聞くことができる（資料 15)。

（1）もう一つの “That Beautiful Land”

F. A. F. White 作詞、J. M. Hagan 作曲の Gospel Song で、作詞者と曲名が同じ、歌詞の前半も 3 番まで 2. 項と同じであるが、後半の繰返し部分”Refrain” が次のように違っている。この歌詞も 1889 年に作られた。

In the beautiful land, On the faraway strand
There awaits us a robe and a crown; In that city, we're told
The streets are pure gold, And the sunlight shall never go down.

メロディは 4 項の Jones のものとかなり似ている。なお、作曲者 J. M. Hagan の生没年や経歴は全く分からず、この曲の作曲年代も不明である（資料 15)。

（2）”Never Grow Old”(1941)

James Cleveland Moore(1888~1962) 作詞・作曲のもので、歌詞は１行目以外は、(1)項や４項のものとは大きく違っている。歌詞の１番は、次のとおりである。

I have heard of a land on the far away strand,
'Tis a beautiful home of the soul;
Built by Jesus on high, where we never shall die,
'Tis a land where we never grow old.
(Refrain)Never grow old, never grow old, In a land where we'll never grow old;
Never grow old, never grow old, In a land where we'll never grow old

.

メロディは(1)項の Hagan のものと比べると、リズムが少し違うものの、全体としては似た点が多い。J. C. Moore は牧師のかたわら各地で歌を教え、また多くの Gospel Song を作詞・作曲した（資料 16)。

６．小松玉厳 作（訳）詞の「希望の島」

小松玉厳（こまつ　ぎょくがん）が作詩の際の号であることから、小松耕輔(1884~1966)を切り口に、そのルーツを探った。

6.1 小松耕輔の略歴

1884 年 12 月 14 日、秋田県で生まれた。17 歳の 1901 年に東京音楽学校専科に、1903 年 9 月に本科に入った。1904 年には音楽雑誌「音楽新報」の編集に参加する一方、詩人の上田　敏、作曲家の小山作之助と交流を始めた。

1906 年には国内初となるオペラ「羽衣」を創作して公演し、同年 7 月 7 日に専科を首席で卒業した。同年 9 月に研究科に入学すると同時に学習院の講師にも就任した。1908 年には「音楽新報」の後継雑誌「音楽界」の編集主事となり、1909 年 9 月、東京音楽学校ピアノ科を卒業した。この年の 8 月 15 日、小松玉巌名で作歌（詞）した「希望の島」を、自ら編集に参加した「和洋名曲集」に掲載し、音楽社出版部から出版した。さらに 9 月には単独の編集で、「名曲新集」という楽譜集を松本楽器合資会社から出版した。

1920～1923 年にかけてパリ音楽院で作曲と和声学を学び、その後ドイツ、オーストリア、イタリア、スペイン、イギリス、アメリカを視察して帰国した。1925 年に作曲者組合を作って著作権保護運動を始め、1927 年には西洋音楽を普及させるため、国民音楽協会を設立した。1966 年 2 月 3 日、死去（資料 17, 18)。

6.2 小松耕輔と合唱

彼は東京音楽学校でピアノを専攻したが、西洋音楽を一般大衆に広めるための方法として、早くから合唱に強い関心を持っていたように思われる。 それは、在校中からの次のような活動から読みとれる（資料 19,20)。

(1)1904 年 5 月 29 日、日露戦争の出征兵士の慈善のため、東京の専門学校・大学から学生を集めて唱歌隊（合唱団）を結成し、「王師遠征歌」という楽譜集の中から 10 数曲を演奏した。

(2)1906 年には小松玉巌名で、音楽雑誌「音楽新報」に「合唱と管弦合奏」という論文を発表し、合唱や合奏の重要性を指摘していた。

(3)1920 年 9 月からのフランス留学の際、文部省から「社会音楽に関する調査」も委託されたため、フランスの社会人が参加している合唱コンクールに強い関心を持った。

(4)1927 年に国民音楽協会を設立し、第 1 回合唱音楽祭（コンクール）を開いた。

(5)1948 年に全日本合唱連盟の設立に参加して初代と第 3 代の理事長を務め、合唱コンクールの基礎を築いた。

6.3 小松玉巌の日本語の原典

これが掲載されている原典は、編纂者　堤　正夫、発行者　池田　勝四郎、発売所　音楽社出版部、の名前で 1909 年 8 月 15 日に出版された「和洋名曲集」である。これが大阪音楽大学音楽博物館の永井文庫に所蔵されていたので、そこを訪問して調査した（資料 21,22）。

6.3.1 目次

和洋名曲集の目次は図 4.（P12)のとおりで、これには「希望の島」がジョンス作曲、小松玉巌作歌と書かれている。この頃はまだ「作詞」という言葉がなかったのか、すべてが「作歌」と書かれている。また、これに掲載されている合唱曲のすべてに日本語の歌詞が付いており、ワグナーの巡礼の合唱（順禮合唱曲）などもある。

6.3.2 歌詞

和洋名曲集の P34 に歌詞が漢字混じりの縦書きで掲載されているので、そのコピーを図 5.（P13）に示す。作歌（作詞）者名が「小松玉巌」と明記されているが、図 6.（P14）の楽譜には書かれていない。

(1) グリークラブ アルバム２の楽譜と比べると、歌詞の発音のうち 1 番は同じであるが、2 番では楽譜の 5～9 小節「みそらに　ほしひかり」が、原典の縦書きの詩では「そらには　ほしかかり」となっており、日本語の原典に二つの歌詞が混在している。

(2) 小松は「希望の島」の訳詞について、自身が編集主事を務めていた音楽雑誌「音楽界」や自伝に何も書きのこしていないため、いずれの歌詞が正しいのか、今となっては確かめるすべがない（資料 17）。

(3) これまで歌われてきた歌詞は楽譜や合唱団によってかなり違っており、漢字の使い方を含めると、多様な歌詞が広まっている。具体的には、10 項(P23)を参照していただきたい。

6.3.3 曲

日本語原典の楽譜は上記名曲集の P35 に掲載されており、それを図 6(P14)に示す。これを英語の原典（図 1.）、グリークラブ アルバム２に掲載されている楽譜と比べると、音楽的にはこれらはほぼ同じであるが、表 1 のように音とリズムが違っている部分がある。その部分を、図 6.（P14)の楽譜に〇印で示した。

和洋名曲集目次

順禮合唱曲……（吉田白甲作歌 ワグチル作曲）廿八、
春曉……（小松玉巖作歌 ハイデン作曲）廿七、

○合唱曲

窓の外……（犬童球溪作歌 シューマン作曲）廿四、
幼子……（犬童球溪作歌 マルシー作曲）廿三、
贖罪……（米花園樂人作歌 シユウベルト作曲）二十、
Rocked in the cradle of the deep.……（ナイト作曲）十八、
幻想……（歌劇研究會作歌 クルック作曲）十六、
花召せや……（加川琴仙作歌 モールス作曲）十二、
卒業の歌……（音樂社學術部員作歌）八、
谷間の梅……（犬童球溪作歌 トーマス作曲）四、
春のねざめ……（吉田白甲作歌 シユベルト作曲）一、

○獨唱曲

六段本曲替手（箏曲）……（音樂社學術部員）七十三、
六段前歌（箏曲）……（樂友社作譜）七十、
かぶと軍旗（三弦樂）……（妙定作譜 吟舟作調）六十六、

○邦樂曲

シンフオニイ（合奏曲）（メンテルゾーン）六十二、
ダンス、オリエンタル（ピアノ曲）（スチルダー作曲）六十、
狩獵（ピアノ曲）……（ヘルレル作曲）九十八、
ホームスヰートホーム（オルガン曲）（ビショップ作曲）五十七、
ガヴオツト（ヴアイオリン曲）（バッハ作曲）五十四、
セレナアデ（ヴアイオリン曲）（タルトン作曲）五十、

○器樂曲

閉塞隊……（音樂社學術部員作歌 シユウマン作曲）四十、
靜夜……（音樂社學術部員作歌 フロトウ作曲）廿八、
光明……（音樂社學術部員作歌 メンデルズオーン作曲）廿六、
希望の島……（小松玉巖作歌 ジョンス作曲）廿五、
子守歌……（工藤富次郎作歌 モヅアルト作曲）廿三、

図 4. 1909 年 8 月に出版された「和洋名曲集」の目次

「希望」の島

小松玉巖

はるかへだつ、海のあなた、
浪風しづかに、
四時花さき、異香はみつ、
あはれこの島よ。
(合唱)『希望』の島、『希望』の島。
ものみな足り満ち、
太陽は落ちず、花散らぬ、
歡樂の蓬萊郷。

天地には光明みちて、
空には星辰かかり
力たらひ、靈魂あがる
あはれこの島よ。
(合唱)『希望』の島『希望』の島。
ものみな足りみち、
太陽は落ちず、花散らぬ、
歡樂の蓬萊郷。

図 5.「希望の島」の日本語原典の歌詞（和洋名曲集）

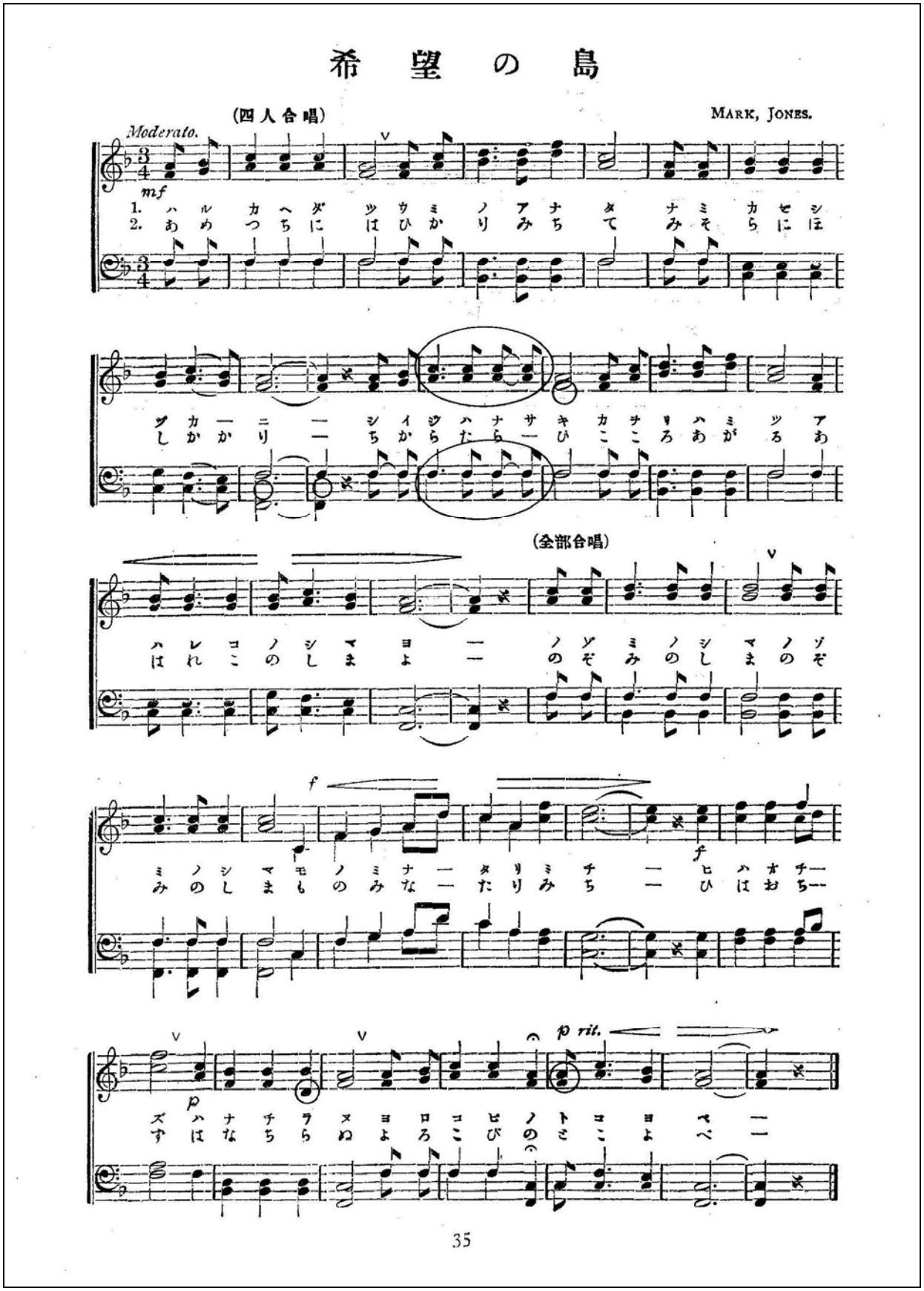


図 6.「和洋名曲集」に掲載された「希望の島」の日本語原典の楽譜（1909 年）

表 1．3 種類の楽譜における音とリズムの違い

小節	(1)That Beautiful Land (英語の原典)	(2)希望の島（小松玉巌）(日本語の原典)	(3)希望の島（福永陽一郎）(グリークラブ アルバム 2 掲載)
8~9	B1 に C 音無し	B1 に C 音無し	B1 に C 音追加
10	全パート、四部音符 x3	歌詞に合せてリズム変更	歌詞に合せてリズム変更
11	T2 の音：F	T2 の音：F	T2 音：A（T1 に同じ）
28	T2 の音：D	T2 の音：D	T2 の音：F
31	T1,T2 の音：Bb/G	T1,T2 の音：A/F	T1,T2 の音：A/F

グリークラブ アルバム２　より前に出版された「合唱アルバム３」と「合唱手帳 5」の楽譜とも比べると、次のような推測ができる（資料 2，3）。

(1)8~9 小節にかけて、グリークラブ アルバム２ではバリトンの音に C が加えられている。これは、グリークラブ アルバムを編集したさい、福永陽一郎氏が追加した可能性がある。

(2)10 小節のリズムが、英語原典と異なっている。これは、歌詞を当てはめる際、日本語のリズムに合わせて小松が変更したものと考えられる。

(3)11, 28 小節で、T2 の音がグリークラブ アルバムで変わっている。これらは合唱アルバム 3 で編曲した平井康三郎によるものと思われる。

(4)31 小節で T1 と T2 の 8 分音符（「とこ」の「と」）の音が、英語原典から変わっている。この部分は原典から遅れて 1926 年にアメリカで出版された”Quartets for Men” に掲載されている楽譜でも原典と同じ音になっているので、小松玉巌が変えた可能性が高い。

6.3.4 作（訳）詞の動機

「和洋名曲集」には解説が無く、また小松の自伝にも関連した記述は見当たらない。ただ、小松は東京音楽学校在校中から盛んに訳詞を行っていて、和洋名曲集と 7．項で説明する当時の音楽雑誌「音楽界」の第二巻第一号（1909 年 1 月発行）にはハイドン作曲「春暁」を、同第二号にはシュルツ作曲「夜楽」を発表している。

「音楽界」第二巻第二号には、近藤逸五郎（後の朔風）が訳詞した「ロオレライ」の楽譜が掲載されていて、同時に近藤自身による解説記事「歌曲 ロオレライの解説」が掲載されている。そこで、「音楽界」のいずれかの号に小松の解説記事が掲載されていないか探したが、発見できなかった。したがって、小松がこれを訳詞した動機は分からないが、多くの訳詞活動の一環として、”That Beautiful Land” が大いに気に入り、「希望の島」として訳詞したものと考えられる（資料 17）。

6.3.5 小松玉巌の歌詞と F. A. F. White の歌詞との関連

1 番の歌詞に対する原詞の影響を見ると、表 2．(P16) のように考えられる。

表 2. 小松玉巌の 1 番の詞に対する F. A. F. White の英語の詞の影響

小松玉巌の歌詞：「希望の島」	F. A. F. White の歌詞：”That Beautiful Land”
(1) はるかへだつ、海のあなた	1 番 2 行目　On a far away strand そのもの
(2) 四時花咲き	2 番 1 行目 There are evergreen trees の連想？
(3) 希望（のぞみ）の島	1 番 7 行目 In that beautiful land に非常に近い
(4) 太陽（ひ）は落ちず	最終行 And the sun shall never go down そのもの
(5)花散らぬ	3 番 4 行目 And perennial spring に近い
(6)歓楽（よろこび）の蓬莱郷（とこよべ）（注）	2 番 6 行目 And nothing shall ever grow old に非常に近い

(注) 蓬莱（ほうらい）：仙人が住む、不老不死の山（中国の伝説）

1 番は原曲の歌詞全体から意味を汲み取って作った訳詞に近いが、2 番には原曲に結び付く言葉が見当たらないので、独自の作詞と考えられる。

西洋音楽が日本に導入された初期には、外国のメロデイに原曲の歌詞とは無関係の日本語の歌詞が付けられることがごく普通に行われていた。1907（明治 40）年代から本格的な訳詞を始め、多くの名訳を残した近藤朔風は、1901（明治 34）年 9 月に東京音楽学校選科生になり、1903（明治 36）年まで唱歌とピアノを勉強した。同時に東京外国語学校にも在学し,外国語に堪能な彼は原曲に無関係な歌詞を付ける風潮を批判し、元の音楽を良く理解した上で訳詞することにつとめていた。同時期に在校していて近藤との交流があり、彼から訳詞の提供を受けて楽譜集を出版していた小松は、この「希望の島」の訳詞に当たり、近藤の考え方に影響を受けたのではないだろうか（資料 23)。

7．音楽雑誌「音楽界」掲載の「希望の島」

最初の報告書を読まれた早稲田大学混声合唱団 OB、石井洋一氏からの指摘で 1909(明治 42)年 6 月 1 日発行の音楽雑誌「音楽界」の第二巻第六号に、「希望の島」が掲載されていることが分かった。そこで、この雑誌の復刻版が所蔵されている大阪市立中央図書館を訪問して調査した

7.1 目次

この号の目次を P17 の図 7. に示す。この号には 4 曲の楽譜が掲載されていて、「希望の島」はジョンス作曲、小松玉巌歌となっている。

当時、小松はこの雑誌の編集主事を務めていたので、「和洋名曲集」の出版に先立ち、宣伝を兼ねてこの雑誌にも発表したものと考えられる。ちなみに、この後の号には「和洋名曲集」を含む楽譜類の広告が毎号、繰返して掲載されている。

7.2 歌詞と楽譜

雑誌の P6 に希望の島を含む 3 曲分の歌詞が、縦書きでまとめて掲載されており、 図 8. (P18) に示す。ただし、楽譜は図 6.(P14)と同じ版が使われているので省略する。

音樂界第貳卷第六號目次

英佛博覽會の音樂會　寫眞版
たゆたふ小舟　（ナイト曲）近藤朔風歌
幼子　（マーセイ曲）大童球溪歌
希望の島　（ジョンス曲）小松玉巖歌
夜の歌　（クワロオ曲）近藤逸五郎歌
米國の音樂マネエジヤー　在米京　青山歌仙
革新的音樂　文學士　吉田白甲
樂のかがみ　都路靜秋
音樂理論　多梅稚
小學唱歌教授私見　教樂子
唱歌教授細目　編輯局
獨習ヴワヰオリン奏法　編輯局

中央樂況
ペッオド夫人音樂會▲ヴキギエチ氏音樂會▲明治大學音樂會▲高等工業音樂會▲音樂團慈善音樂會▲日比谷公園音樂▲慶應義塾音樂會▲日比谷音樂▲露國聲樂家の演奏▲音樂學校規則改正▲音樂教師の來朝▲日本音樂協會夏季講習會▲腦の音樂を司どる部分▲土曜會記事

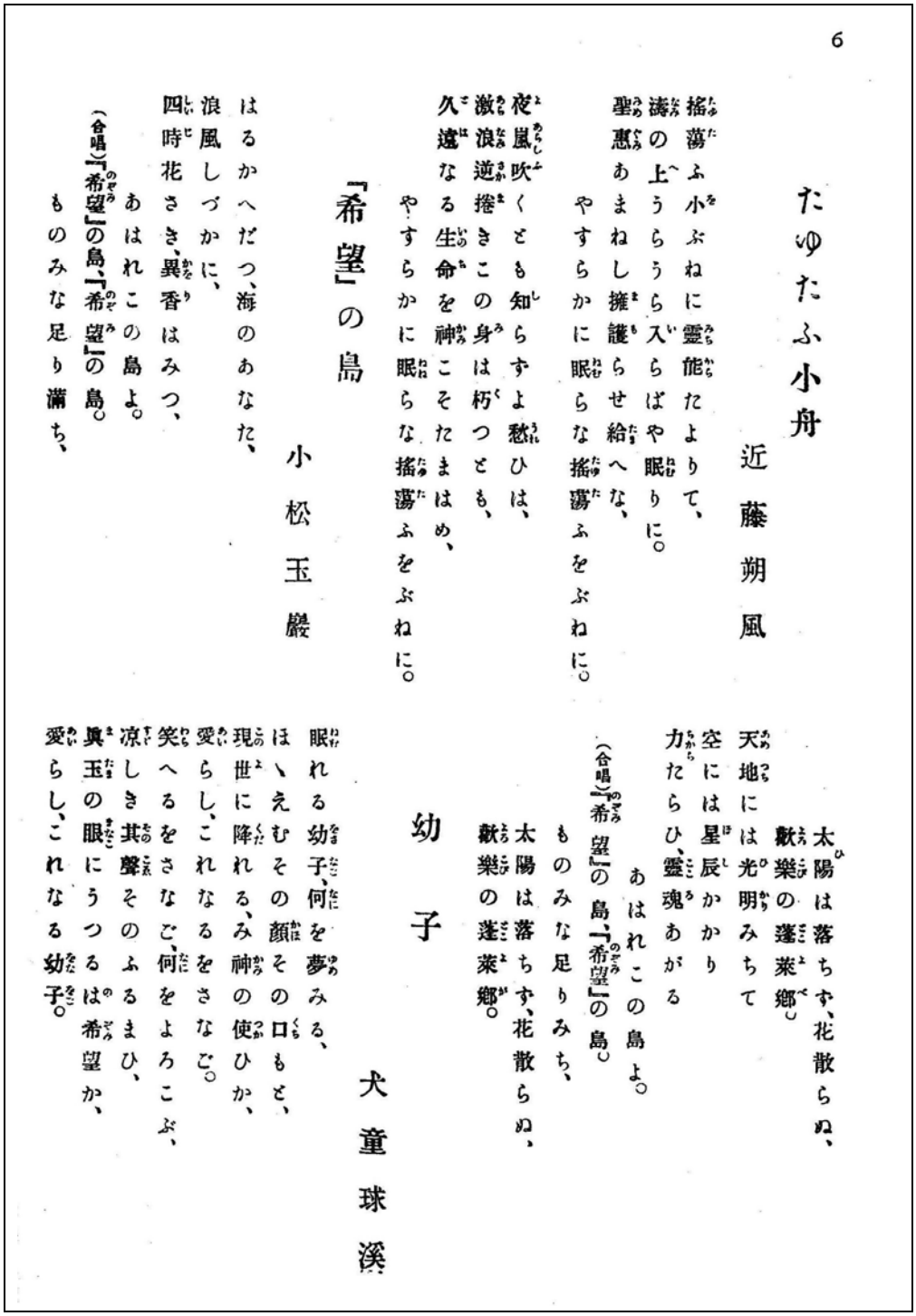
地方樂況
仙臺二高演奏會▲大坂家庭音樂會▲廣島古代舞樂會▲京都家庭音樂會▲青森濟清音樂會▲前橋支部音樂會▲日本音樂協會横濱支部▲新樂器の製作▲廣告正誤數件

樂人動靜

新刊寄贈
統合女學唱歌▲撰定オルガン教本▲青年修身唱歌▲中學唱歌集▲外數件

図 7.「音楽界」第二巻第六号の目次（1909 年 6 月 1 日発行）

基本的には図 5.（P13)と同じであるが、2 番の最終行で蓬莱郷のルビが「とこよが」と間違って振られている。また、2 番の「空には　星辰（ほし）かかり」では「和洋名曲集」の場合と同じく、楽譜の歌詞と食い違っている。



6

たゆたふ小舟　近藤朔風

揺蕩ふ小ぶねに霊能たよりて、
涛の上へうらうら入らばや眠りに。
聖恵あまねし擁護らせ給へな、
やすらかに眠らな揺蕩ふをぶねに。

夜嵐吹くとも知らずよ愁ひは、
激浪逆捲きこの身は朽つとも、
久遠なる生命を神こそたまはめ、
やすらかに眠らな揺蕩ふをぶねに。

「希望」の島　小松玉巖

はるかへだつ、海のあなた、
浪風しづかに、
四時花さき、異香はみつ、
あはれこの島よ。
(合唱)「希望」の島、「希望」の島。
ものみな足り満ち、

太陽は落ちず、花散らぬ、
歓楽の蓬莱郷。
天地には光明みちて
空には星辰かかり
力たらひ、霊魂あがる
あはれこの島よ。
(合唱)「希望」の島、「希望」の島。
ものみな足りみち、
太陽は落ちず、花散らぬ、
歓楽の蓬莱郷。

幼子　犬童球溪

眠れる幼子、何を夢みる、
ほゝえむその顔その口もと、
現世に降れる、み神の使ひか、
愛らし、これなるをさなご。
笑へるをさなご、何をよろこぶ、
涼しき其聲そのふるまひ、
眞玉の眼にうつるは希望か、
愛らし、これなる幼子。

図 8.「音楽界」第二巻第六号に掲載された「希望の島」などの歌詞

8．「希望の島」の演奏と普及

8.1 初演

(1) これが出版された 1909 年 6～8 月は小松が東京音楽学校研究科を卒業する直前なので、音楽学校の合唱の授業などで初演された可能性はあるが、学内の演奏記録には出ていない。しかし、8.2(1)で説明した事実から、学内で歌われていたことは確かである（資料 10）。

(2) 「希望の島」の楽譜が初めて掲載された「音楽界」の第二巻第六号の「中央楽況」欄に紹介されている「第 3 回高等工業音楽会」で、「希望の島」が男声四部合唱で演奏されたことが記載されていた。そのプログラムを、図 9.（P20）に示す。

これは 1909 年 5 月 8 日、午後 6 時から高等工業講堂で開催された音楽会で、楽譜が雑誌を通じで公表される 1 カ月前である。したがって、演奏者は楽譜を雑誌の発売前に小松玉巌から直接、入手していたものと考えられる。これは今まで知りえた最も早い演奏記録、すなわち初演で、歌ったのは音楽部所属の学生　辻 敬信、新 啓次、千野 廣、坂田素夫と思われる。

8.2 初演後の演奏記録

この曲が出版された 1909 年には、主要な大学の男声合唱団がすでに活動している。そこで、これらのうち、ホームページに公開されている同志社と関西学院グリークラブの歴史および慶応大学ワグネルソサィアティ男声合唱団の演奏記録から関連する情報を探すとともに、前出の音楽雑誌「音楽界」についても追加調査した。その結果を表 3.(P22)に示す（資料 11,12,26,33）。

1909 年に雑誌や楽譜集が出版された後、男声四重唱など小規模な形で歌われはじめ、1920 年代には多くのグリークラブに広がり、本格的な男声合唱としていた歌われはじめた可能性が高い。

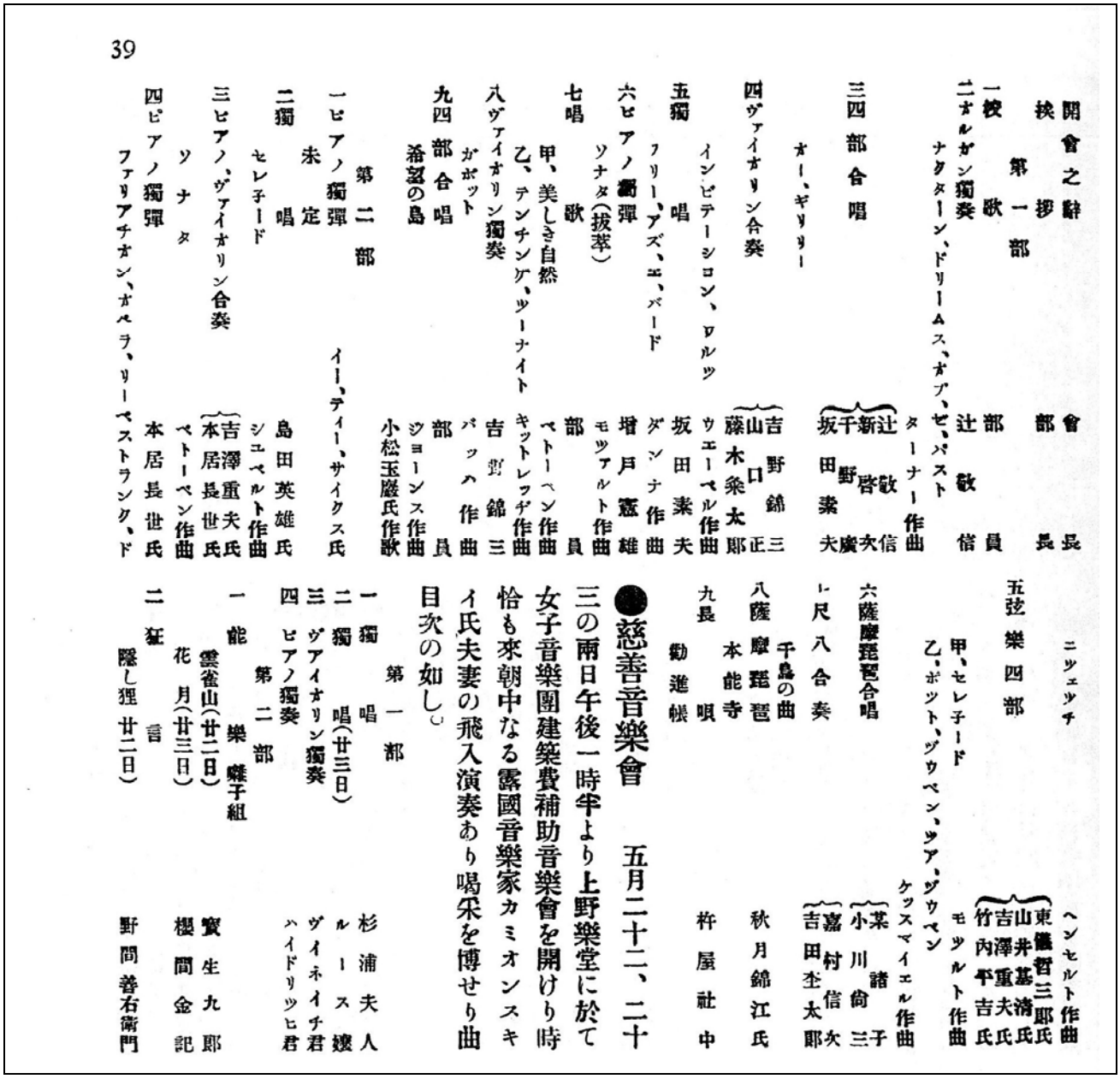
(1) 東京音楽学校生を招き、兵庫県姫路市の姫路武徳殿で 1911 年 8 月 4・5 日に行われた教育慈善音楽会で、テノール浅香鏻三郎・橋村正夫、ベース牧野一郎・両角瀧吉の男声四重唱で歌われた。東京音楽学校では春と夏に学生を中心に地方への演奏旅行が行われていたが、学内の演奏記録には記載されていないので、これは私的な演奏旅行と考えられる（資料 10）。

(2) 同志社グリークラブでは、楽譜が出版された 6 年後の 1915 年には歌われている。特に太平洋戦争中の 1943 年には、「作者不詳」の曲として歌っているが、これは原曲が敵国の讃美歌であることを隠すためだったと思われる。なお、同志社グリークラブ OB の方の話では戦時中、米英の歌が禁止されている中で、これが讃美歌の代わりに度々歌われていた重要な曲だったとのことである。戦後もアンコールや種々の会合などで歌い継がれてきたが、大曲が中心となった定期演奏会ではいつしか歌われなくなり、2003 年 12 月 7 日の定期演奏会のアンコールで 60 年ぶりに歌われたとのことである（資料 27,28）。

(3) 関西学院グリークラブでは、1918 年から歌われている。終戦の年の 10 月に中央講堂での練習を「希望の島」で再開し、その後も愛唱を続けて 1978 年 3 月 1 日には、「グリークラブアルバムⅣ」の LP レコードのために録音している（資料 11,29,30,31）。

(4) 筆者が 2008 年 10 月まで在籍していた名古屋の男声合唱団グランフォニックの団員に尋ねたところ、1959 年に卒業された慶応大学ワグネルソサィアティ男声合唱団 OB の方はこの歌をよく歌っておられたが、1976 年卒業の OB の方は全く歌わなかっとのことである。ちなみに、1960・1961 年の定期演奏会のアンコールでは、まだ歌われていた（資料 26）。

また、1973 年に卒業された早稲田大学グリークラブ OB の方は「いざ起て戦人よ」と共にこの「希望の島」を入団早々から練習し、その後はいずれの曲も数え切れないほど歌った、とのことである。しかし、「希望の島」の歌詞は、他の合唱団のものとはかなり異なっていたとのことである。



39

開會之辭　會長
挨拶　部長
第一部
一校歌　部員
二オルガン獨奏　辻敬信
ナクターン、ドリームス、オブ、ピ、パスト　ターナー作曲
三四部合唱
オー、ギリリー　辻敬信　新啓次　千野廣夫　坂田素夫
四ヴァイオリン合奏
インビテーション、ワルツ　吉野錦三　山口正　藤木桑太郎　ウエーベル作曲
五獨唱　坂田素夫
フリー、アズ、エ、バード　ダンナ作曲
六ピアノ獨彈　増戸憲雄
ソナタ（抜萃）　モツアルト作曲
七唱歌　部員
甲、美しき自然　ベトーベン作曲
乙、テンチンゲ、ツーナイト　キットレッヂ作曲
八ヴァイオリン獨奏　吉野錦三
ガボット　バッハ作曲
九四部合唱　部員
希望の島　ジョーンス作曲
小松玉巖氏作歌
第二部
一ピアノ獨彈　イー、ティー、サイクス氏
未定　島田英雄氏
二獨唱　シユベルト作曲
セレナード　吉澤重夫氏　本居長世氏
三ピアノ、ヴァイオリン合奏　ベトーベン作曲
ソナタ　本居長世氏
四ピアノ獨彈
ファリアチオン、オペラ、リーベストラング、ド　ニツェツチ　ヘンセルト作曲
五弦樂四部　東儀哲三郎氏　山井基清氏　吉澤重夫氏　竹内平吉氏
甲、セレナード　モツアルト作曲
乙、ポット、ヴウベン、ツア、ヴウベン　ケツスマイエル作曲
六薩摩琵琶合唱　某諸　小川倚子
一尺八合奏　嘉村信次　吉田杢太郎
千島の曲　秋月錦江氏
八薩摩琵琶　杵屋社中
本能寺
九長唄
勸進帳

●慈善音樂會　五月二十二、二十三の兩日午後一時半より上野樂堂に於て女子音樂團建築費補助音樂會を開けり時恰も來朝中なる露國音樂家カミオンスキイ氏夫妻の飛入演奏あり喝采を博せり曲目次の如し。

第一部
一獨唱　杉浦夫人
二獨唱（廿三日）　ルース嬢
三ヴァイオリン獨奏　ヴイネイチ君
四ピアノ獨奏　ハイドリツヒ君
第二部
一能樂囃子組
雲雀山（廿二日）　寶生九郎
花月（廿三日）　櫻間金記
二狂言
隱し狸（廿二日）　野間善右衛門

図 9.「希望の島」が初演された 1909 年 5 月 8 日 午後 6 時開演「高等工業音楽会」のプログラム
1 段目、第一部の九に四部合唱「希望の島」がある。

表 3-1　”That Beautiful Land”と「希望の島」の演奏記録(1/2)

年　月　日		“That Beautiful Land” と「希望の島」の関連事項
西　　暦	日本歴	
1894.	明治 27 年	That Beautiful Land 掲載の Towner’s Male Choir 出版
1907.11.09.	明治 40	仙台諸学校連合音楽会でヨンス作「ビューテフル・ランドウ」を歌う⇒Jones 作曲 **”That Beautiful Land” の最も古い演奏記録**
1909.05.08.	明治 42	第 3 回高等工業音楽会で「希望の島」を男声四部合唱で演奏⇒**初演**
06. 01.		小松玉巌、「希望の島」を音楽雑誌「音楽界」に発表
08.15.		小松玉巌、「希望の島」を掲載した「和洋名曲集」を出版
1911.08.05	明治 44	兵庫県姫路市での教育慈善音楽会第 2 日に「希望の島」が東京音楽学校生により男声四重唱で歌われた
1913. 05.24.	大正　2 年	同志社グリー、「ザ・ビューティフル・ランド」を歌う
1915.	大正　4	この頃、同志社グリーのレパートリーに「希望の島」あり
1916. 11.28.	5	同志社グリー、”The Beautiful Land”を同志社音楽会で歌う
1917.　2.24.	6	同志社グリー、名古屋演奏会で「希望の島」を歌う
1918.　2. 2.	7	関学グリー、播磨造船所で「希望の島」を歌う
1919.　2.22.	8	関学グリー、慈善音楽会で「希望の島」を歌う
1920.　6.	9	関学グリー、北陸・信州・東海旅行で「希望の島」を歌う
1920. 12. 4.	9	関学グリー、第 1 回定演で「希望の島」を歌う
1922.　7. 5.	11	同志社グリー、”That Beautiful Land”を渤海・黄海一周大演奏旅行で歌う
1926.	昭和 元年	“That Beautiful Land” が掲載された Quartets for Men 出版
1927. 11.18.	昭和　2	同志社グリー、同志社音楽会で「希望の島」を歌う
1928.10.20-21.	3	同志社グリー、丹波地方演奏旅行で「希望の島」を歌う
1929.10. 1.	4	同志社グリー、演奏会で「希望の島」を歌う
1943.　3.20.	18	早稲田大学学徒錬成部音楽隊が渡邉武仁作詞、磯部　俶編曲の「希望の島」を掲載した早稲田大学学生歌曲集を編纂
1943.　6.27.	18	同志社グリー、演奏会で作者不詳として「希望の島」を歌う
1945. 10.　1.	20	関学グリー、中央講堂での練習を「希望の島」で再開
1946.　2.　9.	21	関学グリー、中央講堂で「希望の島」を歌う
1948. 11. 21.	23	神戸大グリー、第 1 回定演で「希望の島」を歌う
1949. 12.11.	24	神戸大グリー、第 2 回定演で「希望の島」を歌う
1951. 11. 26.	26	早大・関学交歓演奏会の合同演奏で「希望の島」を歌う
1953.　6.21.	28	関学グリー、加古川小学校で「希望の島」を歌う
1953.　7.21.	28	早大・関学交歓演奏会の合同演奏で「希望の島」を歌う
1953.　9.20.	28	第 2 回四連の合同演奏で「希望の島」を歌う、指揮 福永陽一郎

表 3-2　”That Beautiful Land”と「希望の島」の演奏記録(2/2)

年　月　日		“That Beautiful Land” と「希望の島」の関連事項
西　暦	日本歴	
1953. 11.	昭和 28	平井編曲「希望の島」掲載の「合唱アルバム３」出版
1955.12.18.	30	名大男声 OB、第 2 回定演で「希望の島」を歌う
1959. 10.25.	34	「希望の島」掲載の「合唱手帳５」音楽の友社から出版
1960. 12.10.	昭和　35	ワグネル、第 85 回定演のアンコールで「希望の島」を歌う
1961. 12. 16.	36	ワグネル、第 86 回定演のアンコールで「希望の島」を歌う
1977.　9. 8.	52	クローバークラブ、NHK 大阪の TV 番組「近畿 77」の収録で「希望の島」を歌う
1978.　3. 1.	53	関学グリー、「グリークラブ アルバムⅣ」の LP レコード録音のため、「希望の島」を歌う（神戸文化ホール）
1978.　7.　1	53	「希望の島」掲載の「グリークラブ アルバム 2」発行
1997. 11.　1.	平成　9	同志社グリーOB 会が「希望の島」を掲載した愛唱曲集“One Purpose”を編纂
2003. 12.　7.	15	同志社グリー、定演のアンコールで「希望の島」を 60 年振りで歌う

(注)曲名は、参考資料に記載されているとおりに記載した。1913 年はカタカナ、1916 年には頭が “The” になっているが、1922 年には正しくなった。

9．グリークラブ アルバムの楽譜の訂正

9.1 グリークラブ アルバム２

以上の調査結果から、グリークラブ アルバム２に掲載されている「希望の島」の楽譜は次のように訂正すべきである（資料 1)。

(1)作詞者名：　F. A.F. ホワイト作詞(英語)、　　小松 玉巌作詞(日本語)

(2)作曲者・編曲者名：　Mark M.ジョーンズ作曲、 D.B.タウナ―編曲

グリークラブ アルバム２の楽譜では、作曲者が「H.ジョーンズ」となっている。これは、小松の楽譜が広がる過程で、「Mark Jones」が「M.ジョーンズ」となり、さらに「H.ジョーンズ」と誤記されたものと思われる。

(3)歌　詞：6.3.2(P11)で述べたように、小松の原典では 2 番の歌詞の一部が楽譜（図 6, P14）と縦書きの漢字かな混じりの歌詞（図 5,P13）とで異なっている。一般に歌は楽譜をつうじて伝わるので、この報告書では楽譜の歌詞が正しいものとする。したがって、脚注をそのまま生かすためには、図 6. に合わせて、次のように修正すべきである。

2 番の 5～9 小節目を「みそらに　ほしひかり」→「みそらに　ほしかかり」

9.2 グリークラブ アルバム CLASSIC

「グリークラブ アルバム 1～3」が 1959～1981 年に発行されてから 35～57 年が経過し、男声合唱の情勢が大きく変化したことから出版社で見直しが行われ、真に定番となっている 32 曲を

選んで１冊にまとめ､｢グリークラブ アルバム CLASSIC｣として 2016 年 9 月 1 日に出版された。編集にあたっては「オリジナルの明確な作品はそれを優先し、外国曲や編曲作品も、この数十年の間様々な研究の結果、原典ないしはそれに近いものが発見された場合は、できるだけそれに沿う」との方針がとられた。その結果、この「希望の島」は著者の論文の改訂版(3)にもとずき作曲者名が訂正され、編曲者名が追記されたが、出版社側の手違いで 2 番の歌詞の 5~8 小節目を「みそらに　ほしかかり」とすべきところを、そのまま「みそらに　ほしひかり」となってしまった。これは、次の改訂のさいに修正される予定である（資料(35),(36)）。

１０.「希望の島」の多様な歌詞

今回の調査の過程で、楽譜や合唱団によって、歌詞に種々の違いのあることが分かった。その原因の一つは、日本語の原典が長らく忘れ去られていたためではないかと思われるが、これらの歌詞には表 4(P24) の 1~4 のような 4 種類がみられる。これらが伝わる過程で、意識的または無意識のうちに一部が変化してきたものと思われる。

(1) 原典の楽譜（図 6, P14）に忠実な歌詞：同志社グリークラブと慶応大学ワグネルソサイアティ男声合唱団は原典のとおり歌っている（資料 28，26）。

(2) 渡邉武仁作詞の歌詞：1943(昭和 18)年 3 月 20 日付けで早稲田大学学徒錬成部音楽隊が編纂した「早稲田大学学生歌曲集」に掲載されたもので、渡邉武仁作詞、磯部　俶編曲となっており、曲の最後にはコーダが付けられているが、敵国アメリカ人の作曲者名は書かれていない。

歌詞は表 4. の 2 に示すように、1 番はその一部が変わった程度であるが、2 番は全面的に原典から変わって別物になっている。渡邉氏は磯部氏と同じく 1942（昭和 17）年卒業の早稲田大学グリークラブ OB である。1940 (昭和 15）年 3 月に英語の使用が禁止され、1943（昭和 18）年 1 月には日本語訳でも米英の歌が禁止された。この学生歌曲集にはナチスの進軍歌、満州国国歌、イタリア・ファシストの歌など時代を反映した歌が多数、収録されており、これらの間にウエルナーの「野ばら」などと共に「希望の島」が紛れ込んでいる。この歌曲集には、厳しい社会情勢の中で「希望の島」を歌い続けようとした苦心の跡がみえる（資料 24）。

ただ、その後は早稲田大学グリークラブ OB の間で、歌詞が微妙に変化して伝わっているように思われる。

(3)平井康三郎編曲の歌詞：1953 年に音楽の友社から発行された「合唱アルバム３」に掲載されたもので、「蓬莱峡（とこよべ）→ ところよ」のように、平易な言葉に変えるなど、四か所の歌詞が変わっている(資料 2)。

(4) 「グリークラブ アルバム２」の楽譜：全体として小松の原典に近い歌詞であるが、2 番で「みそらに　ほしかかり」が「みそらに　ほしひかり」と変わっており、関西学院グリークラブはこのように歌っている。したがって、グリークラブ アルバム２の楽譜は関西学院グリークラブから提供されたものと考えられる（資料 1,30,31）。

表４ 「希望の島」の代表的な歌詞

1.小松玉巌による原典楽譜の歌詞(1909 年)	2.渡邉武仁による歌詞(1943 年)
１はるかへだつ、海のあなた、浪風しづかに 四時花さき、異香はみつ、あはれこの島よ （合唱）「希望の島」、「希望の島」 ものみな足り満ち、 太陽は落ちず、花散らぬ 歓楽の蓬莱峡。 2 天地には光明みちて、み空に星辰かかり 力たらひ、霊魂あがる、あはれこの島よ (合唱) 1 番に同じ	1 遥かへだつ　海の海方　波風静かに 四時花咲き 薫りは満つ あはれこの島よ 希望（のぞみ）の島　南の島 物皆足り満ち 陽は落ちず　花散らず 喜びのこの島 2 歌声は森に溢れ　泉は美酒（うまざけ） 鹿は若者 乙女はばら あはれこの島よ 希望の島　南の島 美はし常緑（ときわ）の夢醒めぬ 幸(さち)満つるこの国を 讃へや　讃へや
3.平井康三郎編曲による歌詞(1953 年)	4.グリークラブ アルバム 2 の歌詞(1978 年)
1 はるかへだつ うみのあなた なみかぜしずかに しじはなさき　かおりわみつ (繰り返し) あわれ　このしまよ のぞみのしま　へいわのさと ものみなたりみち ひわおちず　はなちらぬ よろこびの　ところよ 2 あめつちにわ　ひかりみちて そらにほしかがやき ちからたたえ　こころあがる (繰り返し) 1 番に同じ	1 はるかへだつ　うみのあなた なみかぜしずかに しじはなさき　かおりはみつ (繰り返し) あわれ　このしまよ のぞみのしま　のぞみのしま ものみなたりみち ひはおちず　はなちらぬ よろこびの　とこよべ 2 あめつちには　ひかりみちて みそらにほしひかり ちからたらい　こころあがる (繰り返し) 1 番に同じ

（注）下線は小松の原典楽譜の歌詞と異なる部分。

１１．謝　辞

今回の調査に当たり、次の三人の方から貴重な情報の提供と大きなご支援をいただいた。ここに、あらためてお礼を申し上げます。

(1) 同志社グリークラブ OB（1959 年卒業）の脇地　駿氏は、ご自身のホームページで英語の原曲が掲載されている楽譜を紹介され、ルーツ解明の重要な手掛かりになった。さらに、メールを交換しながら、種々の有益な情報と助言をいただいた（資料 7 ）。

(2) 大阪音楽大学音楽博物館の小西潤子氏は、日本語原典を探すきっかけとなった重要な情報を機関紙に発表され、その後、同博物館でこれを閲覧するに当たり、便宜をはかっていただいた（資料 21,22）。

(3)早稲田大学混声合唱団 OB の石井洋一氏には、最初の報告書を一読していただいた後、明治時代の音楽雑誌「音楽界」や「早稲田大学学生歌曲集」などに関する貴重な情報を提供 していただいた(資料 24)。

１２．参考資料

(1)福永陽一郎編「グリークラブ アルバム２」、カワイ出版　1978 年 7 月 1 日発行

(2)音楽の友社編「合唱アルバム３」、音楽の友社　1953 年発行

(3)音楽の友社編「合唱手帳５、男声篇（2)」、音楽の友社　1959 年 10 月 25 日発行

(4)原　恵、横坂康彦著「新版賛美歌、その歴史と背景」日本キリスト教団出版局 2004 年 1 月 25 日初版発行

(5)大塚野百合著「賛美歌・聖歌とゴスペル」、創元社　2006 年 11 月 10 日発行

(6)脇地　駿「讃美歌代わりに歌っていた『希望の島』、戦時中のグリークラブ」、タイムス広場―「希望の島余話」“The Tokyo Clover Times” 2009 年 12 月 24 日号 http://clovertimes.cdx.jp/page035.html

(7)「いろんな楽譜集」、さえらのすしのホームページ（脇地　駿氏） http://www.est.hi-ho.ne.jp/wakky1205/score/score.htm

(8)Towner's Male Choir Nos.1, 2, 3, 4 Combined by D. B. Towner, Fleming H. Revell Company, Chicago, New York, Toronto(1894) Antiqbook.com を経由してアメリカの古書店　Popek Booksellers から購入、国内ではフェリス女学院大学、同志社女子大学田辺キャンパスに所蔵

(9) Dr. D. Brink Towner：Composer of hymns－Christian Biography Resources http://www.wholesomewords.org/biography/btowner.html

(10)東京芸術大学百年史　東京音楽学校篇第一巻　昭和 62(1987)年 10 月 4 日、同第二巻 平成 15(2003)年 3 月、同演奏会篇第一巻 平成 2(1990)年 11 月、音楽の友社発行 三重県立図書館所蔵

(11)「関西学院グリークラブ八十年史」、関西学院グリークラブ・ホームページ、資料 http://www.kg-glee.gr.jp/

(12)「同志社グリークラブ三十～百年史」、同志社グリークラブ OB 会ホームページ 資料室、記念誌、http://www.d-glee-ob.grrr.jp/index.html

(13) “I HAVE HEARD OF A LAND” P92 of website “Defender of Truth for the defense of The Gospel”　http://www.defenderoftruth.com/page10.html

(14) “Songs of the Church Number Two” GREAT SONGS PRESS, Baxter Station, Louisville Kentucky(Edition of 1940) 、アメリカの古書店 Born Again Books から購入。1928 年版はフェリス女学院に所蔵

(15) “THAT BEAUTIFUL LAND”, NetHymnal
http://www.cyberhymnal.org/htm/t/h/a/thabland.htm
(16)James Cleveland Moore (1888~1962), Website of Nethymnal
http://nethymnal.org/bio/m/o/o/moore_jc.htm
(17)小松耕輔著、「音楽の花ひらく頃―わが思い出の楽壇」、1952 年、音楽の友社発行
大阪音楽大学音楽博物館所蔵
(18) 小野千草　修士論文「小松耕輔年譜」
(19) 山口篤子「国民音楽協会と合唱音楽祭の初期事情」、阪大音楽学報第 3 号
2005 年 4 月 1 日、大阪音楽大学音楽博物館所蔵
(20) 山口篤子「明治・大正期の合唱受容―合唱観の変遷と活動の実際」
阪大音楽学報第 7 号、大阪音楽大学音楽博物館所蔵
(21) 小西潤子著「明治期歌資料楽譜目録」、大阪音楽大学音楽博物館年報第 23 巻
2008 年 4 月発行
(22) 堤　正夫編纂「和洋名曲集」、1909 年 8 月 15 日　音楽社出版部発行
大阪音楽大学音楽博物館の永井文庫に所蔵。他に国立国会図書館、神戸大学人間科学部、
奈良女子大学にも所蔵
(23) 坂本麻実子、「近藤朔風とその訳詞曲再考」、富山大学教育学部紀要 A(文化系)
No.50：11－22(平成 9 年)
(24) 早稲田大学混声合唱団 OB　石井洋一氏からの私信、2010 年 3 月 15～25 日
(25) 「音楽界」第 2 巻第 6 号、1909(明治 42)年 6 月 1 日発行
大阪市立中央図書館に復刻版所蔵、最近は三重県立図書館でも所蔵
(26) 慶応義塾ワグネルソサイアティ男声合唱団のホームページ、演奏資料室、
http://www.wagner.society.org/
(27) 絶望の時代に歌われたのは「希望の島」だった・石井信平の『オラが春』
http://blog.goo.ne.jp/shinpeishii/e/3c806fe83b5c4790af5dffb7f1994esb
(28) Doshisha Glee Club のホームページ、定期演奏会一覧表
http://www.donet.gr.jp/~gleeclub/index.html
(29)栗山　展種、「希望の島に想う」、関西学院中学部第一回生同窓会のホームページ
http://www.geocities.jp/kgjhaat/page/page_019.html
(30)「希望の島」の演奏、関西学院中学部第一回生同窓会のホームページ
http://www.geocities.jp/kgjhaat/page/sub_018/page_003.html
(31) 「希望の島」の演奏、関西学院大学グリークラブ、指揮　北村協一
LP レコード、グリークラブ アルバムⅣ、1978（昭和 53）年 3 月 1 日
神戸文化ホールで録音、東芝 EMI（株）TA-60089
(32) 復刻版「音楽界」第一巻第二号、1908 (明治 41)年 2 月 1 日発行、の「地方楽況」、
三重県立図書館所蔵

(33) 復刻版「音楽界」第四巻第十号、1911 (明治 44)年 10 月 1 日発行、の「地方楽況」、
三重県立図書館所蔵
(34) 吉居　清「W. M. Vories 作詞、K.Wilhelm 作曲、D.B.Towner 編曲 “Doshisha College Song” のルーツ」改訂(5)、2015 年 1 月 18 日
(35) 広瀬康夫、伊東恵司、山脇卓也共編「グリークラブ アルバム CLASSIC」
2016 年 9 月 1 日　カワイ出版発行
(36) 2016 年 7 月 27 日～9 月 9 日付、山脇 卓也氏からの私信

１３．別冊付録

13.1 「希望の島」関連楽譜集

報告書の本文には掲載しなかったが、関連がある楽譜を「『希望の島』関連楽譜集」としてまとめた。曲名と出典は次のとおりで、必要に応じて参照していただきたい。

(1) 「希望の島」: グリークラブ アルバム 2、第 1 刷　1978（昭和 53）年 7 月 1 日、
カワイ出版発行
(2) 「希望の島」: 作詞　渡邉武仁、編曲　磯部　俶、1943（昭和 18）年 3 月
20 日、早稲田大学学徒錬成部音楽隊編纂、
早稲田大学混声合唱団 OB　石井　洋一氏提供
(3) 「希望の島」: 平井康三郎編曲、合唱アルバム 3、1953 年 11 月、音楽の友社発行、
脇地　駿氏提供
(4) 「希望の島」: 合唱手帳 5　男声編（2）、1959（昭和 34）年 10 月 25 日、音楽の友社発行
(5) ”That Beautiful Land” : D. B. Towner 編曲、“Quartets for Men”に掲載、脇地 駿氏提供
(6) “That Beautiful Land” : 作詞 F. A. F. White、作曲 J. M. Hagan、資料 14、脇地 駿氏提供
(7) ”Never Grow Old” : 作詞・作曲 James Cleveland Moore(1888-1962)、
資料 15、脇地　駿氏提供

13.2 ルーツを探る関連曲集（CD）

調査の過程で収集した演奏を資料として保存するため CD 化し、「男声合唱愛唱曲『いざ起て戦人よ』・『希望の島』のルーツを探る関連曲集（CD）」に収録した。曲名、演奏者、出典などの情報は次のとおりである。なお、(　) の数字は CD のトラック番号を示す。

(11)Mark M. Jones 作曲、”I have heard of a land”, バリトン独唱 Joseph Shore
Youtube 動画サイト。スピーチ付きで、学生を対象にした演奏と思われる。
(12) Mark M. Jones 作曲、”I have heard of a land”, バリトン独唱 Jerome Hines
Youtube 動画サイト
(13)小松玉巌作詞「希望の島」、同志社グリークラブ、指揮　森本　潔、参考資料 28
(14) 小松玉巌作詞「希望の島」、慶応義塾ワグネルソサイアティ男声合唱団
第 86 回定期演奏会（1961 年 12 月 16 日）。 参考資料 26
(15) 小松玉巌作詞「希望の島」、関西学院中学部 OB、参考資料 30

(16) 小松玉巌作詞「希望の島」、関西学院大学グリークラブ、参考資料 31

(17) 小松玉巌作詞「希望の島」、西南学院グリークラブ OB、西南学院グリー・クラブ創立 90 周年記念フェスティバル（2009 年 9 月 19 日）。

(18)J. M. Hagan 作曲”That Beautiful Land”、電子音、参考資料 15

(19)J. C. Moore 作曲”Never Grow Old”, St. Thomas CSI Church, Doha, Qatar Youtube 動画サイト

(20) J. C. Moore 作曲”Never Grow Old”,電子音、参考資料 16